

文化女大家政 ○小水 清子  
成瀬 信子  
金子 一子

1. ジャージは縫製時にいくらか伸長して縫製すると良いと言われるが、どの程度伸長して縫製すれば、最も美しく、また力が加わった時の糸切れが少ないかを調べた。今回はウール100%のよこ編ジャージについて行った。

2. 縫糸はミシン糸の絹50S(200d)、ポリエステル60S(160d)、ウーリーナイロン糸(240d)の3種を用いた。ジャージを2枚合わせ、ジャージの方向はたて方向とよこ方向について縫製、針目数は13/3cm、縫製時の伸長率を0, 15, 20, 25%の4段階に換えてミシンで縫製した。各伸長率に対する縫製後の針目数、試長に対する残留歪率を測定した。次に縫目を中心に幅4cm、試長10cmで荷重伸長曲線を求め、これより糸切れの荷重、縫製しない布地の二枚合わせの荷重伸長曲線との比較を行った。また、肉眼判定、写真判定などからも、ジャージの最も望ましい縫製条件を見出した。

3. 縫製後の糸きれの荷重は、試験布の方向、縫製時の伸長率、糸の種類順に影響が大きい。

ウールジャージは、ミシン糸絹50Sでたて方向に縫製するときは、20%伸長を行って縫製した時、またよこ方向は15%伸長を行って縫製したのが、最も外観が美しく、糸切れの強度も大で、縫製前後の荷重伸長曲線との一致がよい。